

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成26年度第3回 第1分科会（生活環境、産業分野）
日時	平成26年11月10日（月） 午後1時30分～午後3時15分
場所	江南市防災センター 2階 研修室3
出席者	市民委員 後藤 俊夫、藤田 泰雄、宮川 秀男、望月 晴夫、岩井 喜美子、前田 哲郎、 松本 千賀子
	市職員 蟹江 雅紀、米田 隆彦、大岩 直文、石川 晶崇、阿部 一郎、古田 勝己、 加藤 靖之
傍聴者	なし
議題	1. 前回の議事要旨について 2. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について
資料	第2回まちづくり会議 議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 前回の議事要旨について

- ・事務局より前回の議事要旨について説明がありました。

2. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について

〔柱5〕 自然と調和した快適な生活環境の確保

- ・資料4に基づき、委員（環境課長）より説明がありました。

〔個別目標①〕 環境保全の意識が高まり、環境負荷の少ない生活・活動を営んでいる

- ・指標名「市民一人当たりの二酸化炭素排出量（炭素換算）」については1.32t.cを目標に掲げているが、環境フェスタの環境家計簿で個人的に検査した結果、1人年間3.6くらいとなったが、あまりにも開きが生じた理由は何かとの質問に対して、市民一人当たりの二酸化炭素排出量の数値は、市全体の数値であり、各家庭のデータを集計したものではなく、また二酸化炭素ではなく炭素換算なので、数値の開きが生じるとの説明がありました。
- ・二酸化炭素のうちの4分の1が炭素となるのかとの質問に対して、重さの比較でいくと、12対44で3.7倍弱くらいであるとの説明がありました。
- ・県が指導している環境家計簿は、二酸化炭素だけで、江南市は炭素換算だけで留めているから分かりづらいのではないかと意見がありました。
- ・個別目標に対するまちづくり評価の中で、「環境に配慮した行動の実践に向けた環境教育の充実を図りたい」とある。先日、すいとびあ江南で開催された「秋の収穫祭」では、環境教育の一環として、小学校7校の子どもたちがJAの指導により育てた大根などの作物を展示しており、とても良いことだと考えるが、このような指標に出てこない街の声を反映したら、指標も良い数値が出たり、改善策の内容も充実したり、もっと視野が広がるのではないかと意見がありました。

- ・合併処理浄化槽が年々増えているが、下水道の整備状況により、どのように変化していくのかとの質問に対して、下水道の整備は、今後、少しずつエリアを拡大して進んでいくが、下水道計画を踏まえながら、合併浄化槽の設置について検討していただき、将来的に、下水道が整備された時は、浄化槽から下水道へ転換してほしいとの説明がありました。
- ・下水道事業も負担がかかる話なので、市民は下水道がいつ整備されるか知りたいのではないかとの意見に対して、公共下水道事業は、市街化区域を優先に整備されており、調整区域に入るには、市街化区域の整備後になると聞いているとの説明がありました。

〔個別目標②〕 公害苦情等が少なく、生活環境が保全され快適な生活を送っている

- ・公害苦情件数の内容は何かとの質問に対して、全体の苦情のうち、野焼きや雑草に関する苦情が多いとの説明がありました。

〔柱6〕 ごみ減量と適切な処理の推進

- ・資料4に基づき、委員（環境課長）より説明がありました。

〔個別目標①〕 リサイクルが進み、市民が出す可燃ごみ量が減っている

- ・市がごみの減量活動をしているが、目標設定がなく、人口が減少していく中で、他市では、可燃ごみを50%減の目標に取り組んだり、リサイクルアドバイザーを設置しごみの減量に取り組んだりしているので、市民に危機感を持たせるような目標設定をしたらどうかとの意見がありました。
- ・これに対して、江南市では、今年度、ごみ処理基本計画の見直しを進めており、その中で、将来的なごみの排出量やごみ減量に対する目標値の見直しも行う予定である。しかし、江南市民は、積極的にごみ減量に取り組んでおり、ここから大幅なごみ減量は難しいので、例え1グラムでも量を減らすような目標を考えていきたいとの説明がありました。
- ・廃棄物減量推進協議会の中で、協議された方向性も市民に情報提供してほしいとの意見に対して、ごみ処理基本計画の見直しについても、当然公表することになり、今後、パブリックコメントで、皆さんのご意見をいただく場を設ける予定であるとの説明がありました。
- ・ごみ減量は、市民要望型から市民参加型への方向に持っていくことが必要であり、ごみ減量の目標設定によって、処理場の焼却炉も縮小できるのではないかと。また、リサイクルセンターを設置することによって、ごみ減量やリサイクル率にも貢献できるのではないかととの意見がありました。
- ・これに対して、江南市は早い段階から、ごみ減量「57（コウナン）運動」に取り組んでおり、江南市の平成24年度リサイクル率は、愛知県下の市町村では4位、人口10万人以上の市に限ると、1位で、市民の皆さんに高いレベルで、ご協力をいただいているとの説明がありました。
- ・ごみを減らそうとするならば、過剰包装を止めるなど、社会全体の構造を変える必要があるのではないかととの意見に対して、ごみをいかに資源に戻せるかがポイントであるとの説明がありました。

- ・愛知県内の人口 10 万人以上の市で 1 位だから良いという訳でなく、ごみの減量、分別に対し一生懸命行っている人と無関心の人と両極端な状況の中、各指標とも良好な結果であるのではないかと。また、時間はかかるかも知れないが、無関心の人意識改革に努めてほしいとの意見がありました。
- ・ごみ減量やリサイクルなどの環境教育を小学校の低学年から継続的に行っていくことができれば、社会全体のモラルの向上につながっていくのではないかと意見がありました。

〔個別目標②〕 ごみ、し尿、火葬が適正に処理され、市民の生活環境が保全されている

- ・新ごみ処理施設建設について、9 月 23 日付の中日新聞の記事によると、江南市の 3 地区は同意で、扶桑町の小淵区が反対としているが、その理由は何かとの質問に対して、江南市、扶桑町の 6 地区のうち、反対は小淵区だけで、同じ扶桑町の南山名区及び山那区は概ね賛同である。小淵区が反対している理由は、施設の安全性は理解しているものの、候補地が犬山市から江南市に変わった経緯が納得できないからであるとの説明がありました。
- ・新ごみ処理施設建設が 2 市 2 町となった広域化の経緯は何かとの質問に対して、県が平成 10 年に愛知県ごみ焼却処理広域化計画を策定し、県内 13 ブロックに分けた。当初、尾張北部地域として、犬山市、江南市、小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町の 4 市 2 町で協議してきたが、まとまらなかったため、当面は、第 1 ブロックと第 2 ブロックと分け協議することになり、現在の枠組みである「犬山市、江南市、大口町、扶桑町」を第 1 ブロック、「小牧市、岩倉市」を第 2 ブロックとして協議を進めることになったとの説明がありました。
- ・新ごみ処理施設は、江南市単独での建設は経費の面で難しいので、2 市 2 町で建設するのが良い。今後も話せる範囲に限られると思うが、関係住民に対し、何でも状況を説明し、情報を共有すると良いのではないかと意見がありました。
- ・ごみ処理施設建設には、年間 1 人 1 万円以上の経費がかかるため、ごみ処理の実態や市の財政状況を考えながら進めてほしいとの意見がありました。
- ・布袋駅周辺で、収集日以外の日、パックの包装紙などのごみ放置が多い。モラルの問題や不特定多数の方が利用する駅前地域の問題もあるかも知れないが、そういった方の感覚のズレをなくすためにも、啓発活動をこれからもっと進めていくべきではないかと意見がありました。
- ・これに対して、ごみ出しのルールは、皆さんに守っていただきたいので、啓発活動をさらに進めていきたい。また、地域の協力が必要になるが、草刈りを定期的実施するなど、日頃から清掃に努めていただくと、若干の防止策になるのではないかと説明がありました。